

研究・調査報告書

| | |
|--|---------------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 4 5 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Cigarette smoking, alcohol drinking, and risk of lymphoid neoplasms: results of a French case-control study. 喫煙・飲酒のリンパ性新生物のリスク：フランス症例対照研究から | |
| 執筆者 | |
| Monnereau A, Orsi L, Troussard X, Berthou C, Fenaux P, Soubeyran P, Marit G, Huguet F, Milpied N, Leporrier M, Hemon D, Clavel J. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| Cancer Causes Control. 2008 Dec;19(10):1147-60. Epub 2008 Sep 10. | |
| キーワード | |
| 疫学、喫煙、アルコール、リンパ性新生物、リンパ腫 | |
| 要 旨 | |
| <p>目的： リンパ性新生物に対する喫煙と飲酒の寄与について分析する。</p> <p>方法： 824症例と752入院対照例（18-75歳）からなる症例対照研究を行った。症例は新規に非ホジキンリンパ腫(NHL)、ホジキンリンパ腫(HL)、多発骨髄腫(MM)、lymphoproliferative syndrome(LPS)と診断された患者である。対照は症例と性、年齢、施設で調節した。</p> <p>結果： 全体として、喫煙はリンパ性新生物と関連していなかった。しかし、平均喫煙量はNHL、LPS、Hairy cell leukemia(HCL)と逆相関する傾向がみられ、特に後者では有意に負の傾向を示しオッズ比は10本以下、11-20本、20本以上でそれぞれ0.4、0.2、0.1であった。飲酒経験なしと負の関連がHL（オッズ比[95%信頼区間]）0.5[0.3-0.8]、NHL0.7[0.5-1.0]に認められ、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に限れば有意な負の傾向を認めた。対照群の飲酒・喫煙習慣はフランス国民のものと類似している。この結果は考えられる交絡因子で調整しても変わらないし、喫煙と飲酒が両方存在するモデルでも変わらない。</p> <p>結論： 結果はいくつかの先行研究を支持するものであり、研究対象が小規模であったがHCLに対する喫煙の直接または間接的な保護効果が示された。飲酒とHL、NHLの逆相関関係は、先行研究で示されているが、更なる分析が必要である。</p> | |